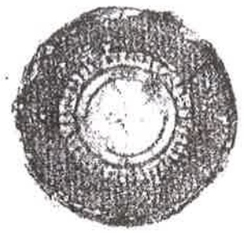
主な出土遺物

（原寸大）

3㎝



拓本（原寸大）

銅鏡（重圏文鏡）

13土坑から出土しました。背面に同心円の区画を設ける重圏文鏡とよばれるタイプの銅鏡で、二重の同心円の外側には櫛の歯状の文様が鋳出されています。直径37㎜、厚さ1㎜、重さ9.4ｇと小型で、舶載鏡と比べて簡易なつくりであり国産品と考えられます。古墳時代時代前期のものと考えられます。青谷上寺地遺跡において、重圏文鏡としては2例目、銅鏡全体としては10例目となります。

11 土坑出土土器

造成土に掘り込まれた遺構からは完全な形に近い土器が出土しています。これらはいずれも古墳時代前期前葉（約1,700前）のもので、造成土から出土する土器とほぼ同じ時期のものです。このことから、この場所での土地造成と土地利用は約20～30年の期間に集中して行われたと考えられます。

10 溝出土土器（小型丸底壺と甕）

10溝からはほぼ完全な形の小型丸底壺と甕の破片が出土しています。小型丸底壺は古墳時代に入り広い範囲で用いられるようになった祭祀に用いられることの多い土器です。

（原寸大）

5 cm

横櫛

古墳時代前期前葉の盛土から出土しました。今日広く用いられる櫛と同じ、横に長いタイプの櫛です。硬い木材を削り出して、黒い塗料で塗って仕上げています。

今後にむけて

来年度の発掘調査では、今年度確認された遺構の性格を明らかにしていきたいと思います。特に、この場所で行われた祭祀の具体相の解明は、当時の人々にとって中心域北側がどのような場所であったを知るうえで重要な課題といえます。今後の青谷上寺地遺跡の発掘調査にご期待ください。

【お問い合わせ先】
とっとり弥生の王国推進課　青谷上寺地遺跡整備室
〒689 - 0592　鳥取市青谷町青谷667番地　鳥取市青谷町総合支所2階
電話（0857）85 - 5011　FAX（0857）85 - 5012
ホームページ　https://www.pref.tottori.lg.jp/yayoi-suishin/　　Email　tottori-yayoi@pref.tottori.lg.jp

令和２年度

国史跡　青谷上寺地遺跡　第19次発掘調査 現地説明会資料

令和２年11月14日（土）　　鳥取県地域づくり推進部文化財局　とっとり弥生の王国推進課

古墳時代前期前葉（約1,700年前）の造成土上で遺構が見つかった様子

第19次発掘調査の概要

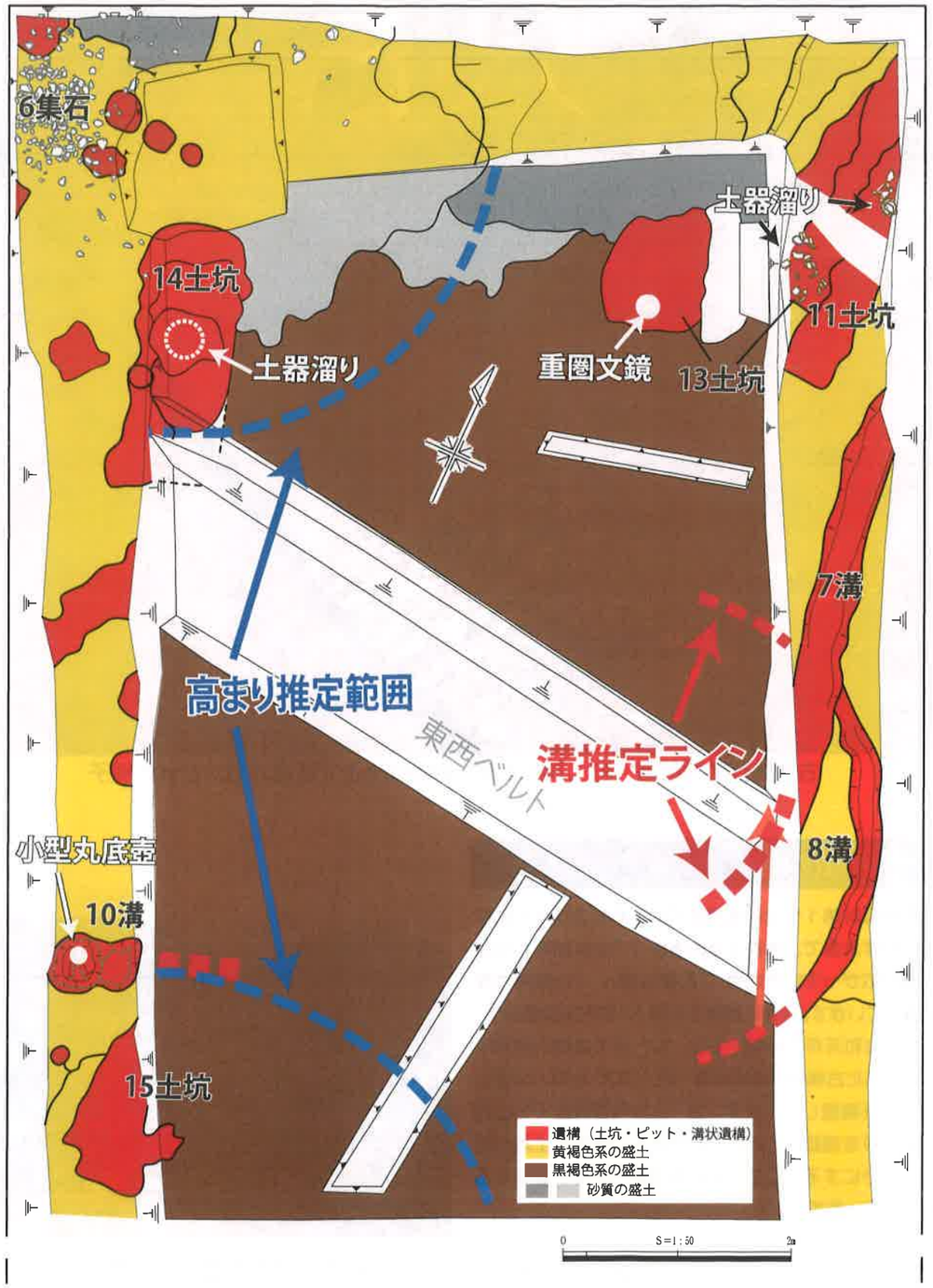
青谷上寺地遺跡第１９次発掘調査では、令和２年度・令和３年度の２か年計画で、青谷上寺地遺跡の「中心域※」北側と当時平野に広がっていた内海（「古青谷湾」）との境界付近を発掘調査しています。東側に隣接する第18次発掘調査区（平成30年度・令和元年度実施）では、これまで遺跡の衰退期と考えられていた古墳時代前期前葉（約1,700年前）の盛土による造成跡を確認しています。第19次発掘調査でもこの造成跡の広がりを確認しており、今後はその詳細と土地の利用状況を明らかにすることで、中心域北側の様相を解明することを目指しています。

※弥生人の活動の中心となった微高地で秀麗な木製品をはじめ多種多様な遺物が出土しています。

第19次発掘調査区と当時の推定地形

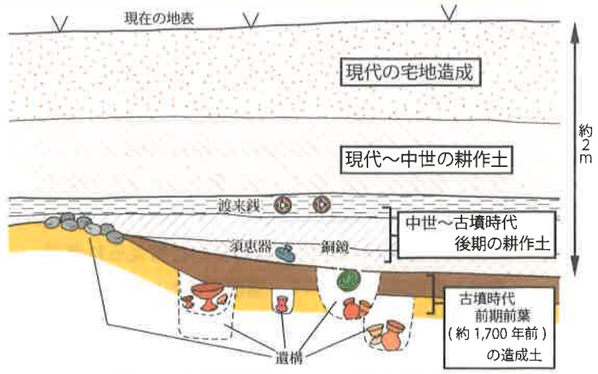
今年度の調査成果

- 第 18 次発掘調査区で確認した古墳時代前期前葉（約 1,700 年前）の盛土造成がその西側である当調査区まで及んでいることを確認しました。
- 当時の人々が、平野に広がっていた内海と遺跡中心域との境界付近にあたるこの場所を造成し、活発に利用していたことが分かりました。
- 確認された遺構の中には、完全な形に近い土器が出土した長方形の土坑（穴）や、銅鏡が出土した土坑があり、祭祀の場として使われた可能性を考えています。



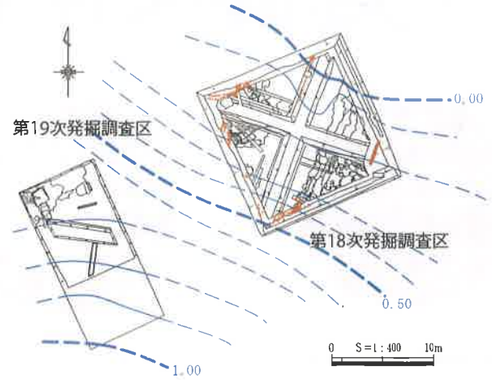
第 19 次発掘調査区（北側）平面図

古墳時代前期前葉の地形



第 19 次発掘調査区の層序模式図

中世～古墳時代後期（約 1,000 ～ 1,500 年前）の耕作土の下に古墳時代前期前葉の造成土を確認しました。造成土の中からも遺構が見つかっており、造成を繰り返しながら使っていたことが分かりました。



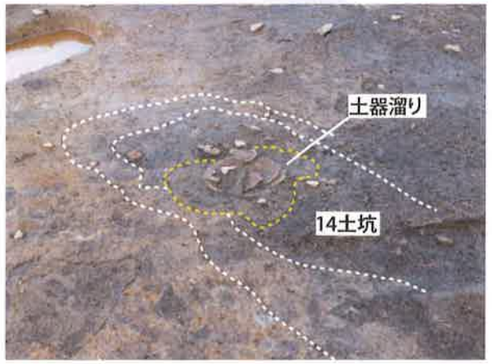
古墳時代前期前葉の等高線復元図

第 19 次発掘調査区では古墳時代前期前葉の造成土が第 18 次発掘調査区より 50 ～ 70 ㎝程度高い標高で確認されました。復元される当時の等高線は、この造成された土地が北東方向へ下がる地形となっていたことを示しています。

主な遺構

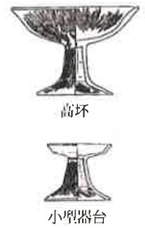
7 溝・8 溝（南東から）

いずれもカーブする溝で８溝→７溝の順に掘削されています。何らかの区画溝の可能性があります。



14 土坑（南から）

長軸 2.4 m以上、幅 1.0 mの長方形の穴で、上面から高坏、小型器台が出土しています。



高坏・小型器台のイメージ
『新島取県史　考古２　古墳時時代』より

6 集石・ピット群（西から）

調査区北西隅において直径約２mの範囲で拳大程の河原石が集中する遺構が確認されました（６集石）。周辺ではピット（小規模な穴）も複数見つかっています。

11 土坑・13 土坑（南から）

11 土坑は長軸 1.2m 以上、幅 0.5m の長方形の穴で完全な形に近い土器が出土しています。これを掘り込む 13 土坑は、長軸 2.1 mの不整形の穴で、土器のほか銅鏡も出土しています。